

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472000775
法人名	株式会社へいあん
事業所名	グループホーム「へいあんなでしこ」
訪問調査日	平成19年11月26日
評価確定日	平成20年2月12日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1472000775		
法人名	株式会社　へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあんなでしこ」		
所在地 (電話番号)	神奈川県平塚市撫子原6-30 (電　話) 0463-35-1515		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10　横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算14.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	52,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋内科小児科整形外科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは平塚駅南口よりバスを利用して約15分、農地が点在し緑も多く閑静な住宅地の一角にある。敷地には余裕があり、菜園、芝生の庭等がある。ホームは2階建てで、建物の中央部に吹き抜けがある。全体的に機能的に作られており、収納部も多く、畳の間付きの居間や廊下も広くゆったりしている。
職員は管理者を中心に明るく優しく利用者に接し、利用者の幸福を常に考え、理想のホームの実現を目指し努力している。
地域の花木地区自治会に加入し、公民館などで開催されるカラオケや日舞等の催しに参加している。利用者は散歩を気軽に楽しみ、保育園との相互訪問、大正琴や傾聴ボランティアの来訪等、地域との様々な交流も定着しつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、利用契約書への利用者の権利・義務の項目明記、「たより」の発行等について指摘を受け、その後その点を改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について、フロアミーティング等で管理者より職員に説明し、今までの反省と共に将来のあり方を考える材料にするものであると確認し合った。自己評価は職員も参加してユニット毎にまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は本年よりスタートし、既に4回開催している。現在のところはホームからの利用や運営状況等の説明や報告が主な内容であるが、災害時や夜間時における地域との連携について提言を得て、この12月に予定している避難訓練のPR用の「たより」を地域に配布し、理解と協力を仰ぐなど、提言を活かすべく取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族には、毎月「ホームだより」で近況を伝え、同時に金銭収支、行事の写真、献立表、受診や通院を含んだバイタルチェック等が報告されている。訪問時には生活状況を含めた情報提供を行っている。また、アンケートを家族向けに年2回実施し、要望や意見等を聴取し、結果を運営の改善に役立てると同時に、家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の花木地区自治会に加入して、小学校での「地域運動会」や地域公民館での「なでしこフェスティバル」のカラオケや日舞等の催しに参加している。また、近隣の保育園との相互訪問、散歩の際に近隣の方と気軽に立ち話をしたり、ボランティアの来訪がある等様々な交流を楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は、お客様を常に敬い尊び心で接します」、「私達は、お客様が生きがいと喜びを持って、穏やかに暮らせる居心地よい環境を創ります」の二点を理念に掲げている。この理念は日々の実践の基本姿勢として指針になるように職員で考えたものである。現状に即して変更し、現在のものは平成18年に作られたものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎日の朝夕の申し送り前に唱和している。確認の意味で励行し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の花水地区自治会に加入して、小学校での「地域運動会」や地域公民館での「なでしこフェスティバル」のカラオケや日舞等の催しに参加している。また、近隣の保育園との相互訪問、散歩の際に近隣の方と立ち話をしたり農産物をもらうなど、交流を楽しんでいる。12月に予定されている避難訓練も「たより」でPRしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、フロアーミーティング等で管理者より職員に説明し、反省点と将来のあり方を確認し合った。自己評価は職員も参加してユニット毎にまとめた。前回の外部評価で、利用契約書への利用者の権利・義務の項目明記、「たより」の発行等について指摘を受けたが、その後その点を改善した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は本年よりスタートした。2ヵ月おきに開催を予定しており既に4回開催している。現在のところはホームからの運営状況等の説明や報告が主な内容である。災害時や夜間時における地域との連携について提言を得たため、この12月に予定している避難訓練のPR用の「たより」を地域に配布し、理解の協力を仰ぐなど、提言を活かすべく取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市の介護相談員派遣を受け入れサービスの質の向上に努めている。また、市内の12ヵ所のグループホームで協議会が結成された。協議会には行政の参加もあり、開催の都度、ホームの課題や活動状況が市当局へも報告されている。当ホームを含んだ法人全体を紹介したパンフレットが市の関係施設に置かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族には毎月「ホームだより」と、その紙面の空白欄に職員が手書きで近況を書き、伝えている。金銭収支、行事の写真、献立表、受診や通院を含んだバイタルチェック等、それぞれ1ヵ月分が合わせて報告されている。また、訪問時には生活状況を含めた情報提供を行い、必要があれば、適宜に電話やパソコンのメールで連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の人材開発部で作成した独自の家族向けアンケートを年2回実施し、要望や意見等を聴取し、運営の改善に役立ると同時に、それらを家族に報告している。また、来訪の折にも、意見や要望を忌憚なく言うよう働き掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が予定されているケースではかなり早くから、退職の場合は1ヵ月位前から、関係職員の重複勤務を行い、引継ぎ時間を十分に取し、利用者へのダメージを極力少なくするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者の場合、法人の人材開発部で1日間、認知症ケア、保健衛生関係、虐待、守秘義務他、オリエンテーションを含む初歩的な研修を行なっている。外部研修は、2ヵ月に1回程度、職員が交替で参加している。研修後は職員毎の研修ファイルに記録し、他の職員に回覧し、時にはフロアーミーティング等で発表して周知徹底される仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の12ヵ所のグループホームで協議会が結成され、各種協議や情報交換等の交流を通じてサービスの向上に努めている。交換研修も2日間の日程で行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	遠方よりいきなりの入居となったケースもあるが、ほとんどの利用者は入居前に家族と来訪してもらい、利用者や職員と一緒に食事等をしたり、共に過ごすことにより、徐々に馴染みながら入居に繋げるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の幼少期や学生時代、戦争当時の話を傾聴したり、ある時は利用者主導で散歩しながら周囲の畑の花や緑を見たり、近くの日曜大工センターに出向いて売り物の花や子犬の見学を楽しんでいる。また、礼儀作法や、水や湯の出しっぱなしを注意され、節約や物を大切にすることを教えられることもある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴やADL等の基本情報、基本的なニーズを把握して、日々の関わりの中で思いや意見を聞きながら、それに応えるように努めている。例えば、散歩のコース選択、日常の食事や外食時のメニュー等の場面で希望を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からは、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、ケアに反映するように努めている。毎日の朝夕の申し送りや気がついたことを職員間で意見交換し、共有するようにしている。また、フロアミーティングやモニタリングでカンファレンスを行い、それらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月、3ヵ月の区切りで職員の気づきやアイデアを集めて、実情に即した介護計画の見直しが3ヵ月毎を基本として行なわれている。精神的に落ち着きがない等状態に変化が見られる場合には、医師の判断を参考にして計画を見直している。見直しの時期や本人・家族の意向が記録された介護計画を確認した。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の医師との連携や、看護師の職員もいるので終末医療への対応も可能で、医療連携体制加算も受けている。また、家族の事情で通院付き添いができない場合は職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の何人かは入居前からの主治医(内科、循環器科、整形外科)に継続して診てもらっている。利用者全員を対象に協力医療機関の医師による月1回の往診があり、必要時には随時往診をお願いし健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係医師と24時間体制をとり、看護師の職員もいるので終末医療や看取りへの対応も可能で、過去に2人の看取りをしている。介助方法、関係者への連絡要領等についても職員で共有し、万全な体制をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導、失禁時、衣類の着脱等の際は、職員は利用者のプライドやプライバシーを大切にした対応に努めている。紙おむつやパットの利用を始める際もタイミングを捉え、細心の注意を払い支援している。利用者の個人情報記録は施錠できる収納場所で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の声を聞いたり、様子や思いを汲み取り、気持ちを大切にしながら、その状態を勘案して柔軟な支援に努めている。日中の過ごし方や入浴の希望、散歩への参加や時間、行く先等、利用者個々のペースに合わせて、職員は可能な限り対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、一部に利用者の希望も取り入れ、できるだけ季節の食材を使ったメニューを心掛けている。食材の買い物への同行、調理の下ごしらへの参加、味の希望等利用者の希望に沿った支援をしている。昼食では、利用者は職員と一緒に会話を弾ませながら楽しんでいた。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的に午後を入浴時間としている。職員が対応可能な時には自由な入浴が可能であるが、現在のところ特に希望はない。入浴したくない利用者には工夫して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は日々の散歩、買い物、書道、俳句、囲碁等を楽しみながら生活している。俳句は経験のある利用者が中心となって句会を開き、囲碁では1・2階の男性利用者が交流している。また、ホームの菜園で花や野菜作りを手伝い、居室の専有ベランダで鉢植えを楽しむ人もいる。また、大正琴や傾聴のボランティアの定期訪問で、音楽や会話等を楽しんでいる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲の環境に恵まれていることもあり、散歩は日課として行っている。利用者の希望や状況に合わせてコースや時間を柔軟に設定して支援している。また、2ヵ月に1回ユニットの利用者全員でドライブし、外食も合わせて楽しんでいる。藤、桜、菊、コスモスなど季節の花見も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面を配慮しつつ、日中は玄関などの鍵を掛けないケアを実践している。1・2階は自由に行き来できる。夜間は玄関のみ施錠している。利用者の何人かは夜間、居室の出入り口に内鍵をかける習慣もあるが、緊急時には外より解除できる。非常口は以前、職員が締め忘れたこともあったので、チェック表で日々確認している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の役割分担を決め、消防署の指導による避難訓練を年2回実施している。この12月には、初めて地域参加型の避難訓練を予定している。煙感知器や警報装置も完備され、災害備蓄用品の備蓄についても準備されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個別サービス記録で食事量や水分量を日々チェックし、職員間で情報を共有し、健康管理に配慮した支援をしている。栄養バランスや摂取カロリーの計算は特に行っていないが、今後、法人の系列施設の栄養士による定期的なチェックを予定している。	○	栄養バランスや摂取カロリー計算については、現在計画中の、法人系列施設の栄養士によるチェックを実施することを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、食堂、畳の間付きの居間、浴室、トイレ等は、それぞれが広くゆったりしている。居間には応接セットやテレビ、季節の花や鉢植えが置かれ、明るく、清掃も行き届き、食堂のテーブルや椅子の数にも余裕があり、十分くつろげる空間になっている。壁面のあちこちに絵画、行事の写真や利用者の手による書道や創作品が飾られ、親しめる雰囲気であった。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居間にはベット、机、椅子、整理ダンス、テレビ、家族の写真、遺影、仏壇、位牌等、それぞれ馴染みの持ち物が置かれ、居心地よく安心して過ごせるよう配慮されていた。また、居室毎にある専用ベランダでは好みの花を栽培している人もいた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「へいあん なでしこ」
（ユニット名）	野 あ ざ み
所在地 （県・市町村名）	神奈川県平塚市撫子原6-30
記入者名 （管理者）	高江洌 順子
記入日	平成 19 年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活する事を支えるケアの具体的なイメージを持って職員全体で話し合い、事業所独自の理念を作成している。	○	地域の中での行動範囲が狭いのが残念。住み慣れた地域で生きがいと喜びを持って穏やかに暮らせる居心地よい環境を創り、関係性の継続を支えるための柔軟な支援に取り組んでいます。
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、確認しあうようにしている。		具体的なケアについて意見の統一を図っている。毎朝、朝礼にて、理念を唱和している。
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族にはホームだよりを活用し、最も目につく場所に毎回載せている。地域住民のホーム見学の場面でわかりやすく説明している。	○	パンフレットを通して理念を伝えている。今後は、町内会の会合、地域の集まりやイベント参加の他、地域向けの情報誌の発行に取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの保育園児の訪問があり、日常的に散歩や買物等に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。		保育園児が散歩の途中に気軽に立ち寄り、歌を歌ったり、ご利用者とお話をしている。回覧版や、お花や畑の作物の差し入れをいただいたり、近隣に住む人達とふれあう機会がある。
5 ○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の行事に参加している。		事業所敷地内にゴミステーションを設置し、地域の方々にも利用していただいている。11月の防災訓練には、近所の方々にも参加していただく予定にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において地域の町内会役員や、民生委員の方に地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか、議題の中で提案しているが実施していない。人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。	○	通所介護にも取り組み、認知症高齢者等の受け入れを計画し、取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	具体的な改善に取り組んでいる。グループホーム便りの毎月の発行。理念の作成。		ホームだよりを作成し、毎月ご家族へ送付している。事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成した。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や、懸案事項について、その経過を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえて、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。	○	災害時の対策と地域との連携。SOSシステム作り。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的なグループホーム連絡会に参加している。		市町村担当者に事業所の活動や、課題について報告し、協議等行うよう働きかけている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の「安心センター」(地域福祉権利擁護事業)の協力を得て支援している。	○	成年後見については、管理者が一人ずつ対応するため他の職員は理解していない。その為必要な時に支援出来る体制が万全とはいえない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。		高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を充分とって丁寧に説明している。特に利用料金や、起こりうるリスク、重度化や、看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		ご利用者の状態変化により、契約解除に至る場合は、ご本人を交えてご家族等と対応方針を相談している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月に一度派遣してもらい、ご利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考にしている。	○	ご利用者同士が話し合っ、ご利用者の要望や意見を出してもらう機会を作る取り組みをしたい。出された意見は、運営や日々のケアに活かしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホームだより」にて現在の報告をし、他に電話やメールなどで連絡を取っている。		月に一回「ホームだより」を発行し、ご利用者の普段の暮らしぶりについて心身の状況チェック表、一ヶ月の献立メニュー表、写真等を添えて報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣の受け入れや、年に2回の社内アンケートを実施し回答するシステムがある。		ご家族には面会時や家族会等で常に問いかけ、何でもお話いただけるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のフロアーミーティングにて実施している。		毎月1回のフロアーミーティングに職員が全員参加し職員の意見や提案を聞く機会にし、反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応に向けた勤務調整に努めている。		職員の急病や急な休みの時に応援してくれる人が確保できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。		やむを得ず職員が代わるときは、引継ぎの時間を充分にとり、スムーズに移行できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、研修等参加の機会がある。	○	段階的に力をつけているための介護職員業務レベル評価表を作成し、目標課題をもってもらっているが、まだ調整段階で、十分生かされていない。事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、それらの研修報告は、毎月フロア会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村単位のグループホーム連絡会に管理者が参加している。	○	市内に連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。今後は全国組織の同業者ネットワークに加入し、質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常業務や面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。気分転換できる休憩室を確保している。	○	職員の話を十分聞いて職員個人への対応をし、職員のストレスを軽減する為の環境づくりに取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホーム介護職員レベル評価表を作成している。	○	グループホーム介護職員レベル評価表を作成しているが、段階的、計画的に職員が向上心を持って働けるよう職能評価につなげていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、ご本人に会い、話をよく聴くことを大切にし、ご本人を受け止めることに努めている。		事前面談で生活状態を把握するよう努め、またご本人にグループホームを見学していただき、他のご利用者と食事を一緒にし、ご本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談をするご家族の立場に立って、ご家族等の話をしっかりと聴き、受け止めながら関係を築くことに努めている。		これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前の話し合いから、次の段階の相談につなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、ご家族の実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所に来てもらい、短時間でも過ごしていただいたり、ご利用者と食事を一緒にしたり、ご本人が職員や、ご利用者に徐々に馴染みながら、利用に移っていただけるように支援している。		やむを得ずご家族の状況で利用が急がれる場合には、ご家族やそれまで関わっていた関係者に来てもらうなどして、安心感を持ってもらうようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に話したり、テレビを観たり、昔話を聞いたりし、ご利用者が一番好む話や、場面を作り出している。	○	ご利用者を支援されるのみの立場におかず、ご利用者の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりを築いていきたい。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることでご本人をささえていくための協力関係が築けている。		職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めご本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している事を伝えている。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者が伝えられない思い、うまく話せない言葉を時には代弁者となって支援し、ご本人とご家族との時間を大切に見守っている。職員は裏方に回り、ご家族とご本人の絆を大切に家族の役割を奪わないよう気配りしている。	○	ご家族、ご本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊でご家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事にご家族を誘ったりしながら、よい関係の継続に努めていきたい。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は積極的に行っている。今までの生活の延長線上であるよう、友人等の訪問や、電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できる支援をしている。	○	ご本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう、知人、友人や商店、行きつけの場所等とご本人がつきあいを続けられるように実際に会いに行ったり来てもらったり、あるいは出かけていく場面を積極的に作っていきたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気持ちよく過ごしていただく為に、テーブルを囲んでいただいたり、居室を変えていただいたり、あるいは食卓テーブルの配置を工夫する等、集団の中で、ご利用者の仲の良し悪しに配慮し、ご利用者が孤立してしまわないよう支援している。毎日の食事やお茶の時間は、職員も一緒に摂り、多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通してご利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。	○	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士が過ごせる場面づくりをする等ご利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。年長者として長年培った人とうまく付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力等を発揮できるよう、ご利用者同士の支え合いを引き出し支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にご利用者と一緒に遊びに行ったり、行事にきてもらったりしていない。	○	サービスの利用が終了された方も、行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。	○	発言力のあるご利用者だけでなく、一人ひとりの表情や行動の中にある、その方の希望や意向を把握できるよう努力する。「聞いても実現は困難」とみなしたり、「認知症だから聞くのは無理」と決め付けるのではなく、一人ひとりの思いや意向について関心を払いご本人の視点に立って意見を出し合い把握に努めます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者等から聴き取るようにしている。利用開始後も折に触れご本人やご家族にどのような生活をしていたかを尋ねている。	○	ご家族がご本人の暮らしぶりをあまり知らずご利用者の生活歴を把握できない場合は、ご家族の許可を得ながら、ご本人の昔をよく知っている親類や友人、近所の人達等にも、丁寧に働きかけて、過去の具体的な情報を伝えてもらうよう努めていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。	○	ご利用者の部分的な問題や、断片的な情報の把握に陥らずに、一人ひとりの一日の暮らしの流れに沿って、ご本人の状況を総合的に把握していくことに努めていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング等カンファレンスを行っている。	○	「ご本人に伺っても無理」と決め付けず、ご本人と計画について話し合い、意向やアイデアを反映させていく取り組みをしています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回はケア関係者の最新の情報や気づきケアのアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくために介護計画の見直しをしている。	○	介護計画と照らし合せて、現時点のご利用者やご家族の状況・ニーズ・サービス提供状況と、ずれていることはないか、見直していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録書に職員の気づきや、ご利用者の細かな発言もふくめ記入している。	○	介護計画に沿って実践されたか、それでどうなったかの評価を日常的に記入し、情報の蓄積につなげていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。	○	ご自宅で暮らす認知症の方々に居住環境や職員によるデイサービスを予定している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防署や民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	警察署・公民館・図書館等地域の資源を活用できるように普段から連携を取っていきます。ご本人と地域とのさまざまな接点を見出し、ボランティアへの協力を呼びかけていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人のご希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		地域の図書館や町内会が開催するダンベル体操に参加したり、また、市営温水プールを利用させていただく予定にしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換等協力関係を築いている。		権利擁護が必要なご利用者には、「安心センター」(市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業)と協力してサービスが円滑に利用できるよう支援している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ホーム利用以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。		通院介助等を行う際の情報交換は、受診結果に関する情報の共有ができるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、これまでのかかりつけ医を基本としています。		状況に応じてご本人やご家族が希望する医師による医療を受けられるように支援する事もある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		訪問看護ステーションとの契約に基づき日頃の健康管理や医療面での相談・助言対応を行ってもらっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるご本人のダメージを極力防ぐ為に病院医師と話をする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁にご家族が見舞うように協力していただき、ご家族とも情報交換をしながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定めている。	○	終末に対する対応方針を定め、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとにご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い支援につなげている。ご本人やご家族の意向、ご本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて方針をチームで話し合っている。今後重度化に伴う意思確認書を作成する必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。急変した場合は直ぐに対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		重度や終末期のご利用者を支えるために、チームの連携職員の力量、諸条件等を備え、他のご利用者への影響を踏まえて対応している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は、職員同行、口頭による情報交換とともに書面による情報交換に努めている。		新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が保たれるように、これまでの生活環境や支援内容、注意が必要な点等について、情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともにご利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底に取り組んでいる。	着脱時やトイレ誘導時の声掛け等には高い意識を持っている。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	あいまいな尋ね方ではなく、選べるような尋ね方をすると、自己を表現してくれる。	ご利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、些細な事でもご本人が決める場面を作っている。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュールに多少合わせている場面もあるが、無理のない程度に配慮している。	買物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、可能な範囲で柔軟に対応している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的にはご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくいご利用者には、職員と一緒に考えて、ご本人の気持ちに沿った支援を心がけている。	家庭的な雰囲気にならうという点でも職員は一律のユニフォームではなく、職員各位の個性を反映した自由な装いをご利用者と一緒に楽しんでいる。個々の生活習慣にあわせ支援し、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを一緒にしてもらっている。皮むきや、豆の筋をとったりしている。	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気作りも大切にしている。時には職員と一緒に外食を楽しんでいる。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はタバコ・お酒を望む方はいない。おやつや飲み物は、なるべく召し上がりたいものを伺っている。	ご利用者が自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に採り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促している。		排泄チェック表を使用し、尿意のないご利用者にも時間を見計らって、誘導する事により、トイレで排泄できるよう支援している。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂や夜間入浴等、これまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できていない。		時には朝風呂やご本人の意向に沿った入浴をして頂いている。また、仲の良い方どうして一緒に入浴していただく事もある。拒否のある方に対してのチームとしての支援は出来ている。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。寝付けない時には、添い寝をしたり温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道や囲碁を楽しみ、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらう事や、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。季節の花や風景を楽しみ、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみ事をご利用者と相談しながら行っている。	○	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、また潜在している記憶やできる力を最大限活かして、自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援に取り組んでいきます。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に、個人の買物をするようにしている。	○	ご家族の協力を得て、小額のお金を持っている人もいる。ご家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時や喫茶店のお金などは、ご自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。仏壇のお供え等ご自分で買物に行かれる。化粧品等の買物を職員やご家族が買っていたが、ご自分で選んでもらうようにしたい。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩に出掛けている。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店に行ったり、外出に出かけたりしている。	○	日常的に買物やドライブが楽しめる生活に取り組んでいきます。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、場合によってはご家族の協力を依頼することもある。	○	「故郷に帰ってみたい」「温泉に行きたい」などのご利用者の思いが出された時は、実現する為の方策を職員同士で検討し支援に繋げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。	○	ご本人は手紙は書けない、電話は掛けられないと決めつけずに、ご家族やご友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、年賀状や暑中見舞いを出す等の支援をしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは決めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。		自由にお子さんや、お孫さんと一緒にお部屋でお茶をおただきながら、気兼ねなく過ごせるよう、おもてなしの心で取り組んでいる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する研修を事業の中で実施し、職員の共有認識を図っている。		ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われてないか等の点検をしている。止むを得ず、身体拘束が必要な場合は、ご家族、主治医の承諾を得、ご家族の承諾書を頂いている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。ご利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	○	ご利用者や地域のお年寄りが、自由に出かけられる保障のためにも、地域との連携やネットワークづくりの推進に取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながらも、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。		夜間は2時間ごとにご利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できる場所にいるようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、ご利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、ご利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		今まで大丈夫だった、というのは今後も大丈夫の保障は無い為、洗面所の石鹸等は棚(ボックス型)を用意し、ご利用者をご自分で棚から出し入れできるようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族への説明と報告を行っている。	○	スタッフ同士の情報交換、防止策の検討は、ミーティングにおいて、随時行っているが、ヒヤリハットの報告が徹底されていない為、今後は職員全員で取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制、緊急時対応の研修は準備されているが、定期的な訓練はされていない。	○	全ての職員が年に1回の応急手当の勉強会(実技を含む)を実施し、体験、体得、習得できるよう取り組みたい。また、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回ご利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。		消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者一人ひとりに起こりえるリスクについて把握しており、ご家族等に対して対応策を説明している。		様々な役割活動や、自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしがご利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを、ご家族に見ていただいたり、具体的に説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調やささいな表情の変化も見逃さないよう、早期発見に努めている。変化等気づいたことがあれば、すぐに管理者に報告するとともに、職員間で共有し対応している。	○	一人ひとりの持病等についての留意事項の把握の徹底に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに処方箋を整理し、処方箋一覧表に薬の変更時にはその都度記載し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡し、きちんと服用できているかを確認している。	○	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が観られる時は、いつもより詳細な記録を取るようにし、看護職員や協力医療機関の連携が図れるように取り組んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や、乳製品を摂りいれている。		散歩や運動を働きかけることで、自然な排便ができるように取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助をしている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		口腔ケアの重要性をすべての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身に付けるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをいただけるよう、取り組んでいます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所ないで起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策に努めている。		感染症に関して情報収集を行い取り決めをつくり、早期発見、早期対策に努めている。またご利用者及びご家族に同意していただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔を心掛けている。		新鮮で安全な食材を使用するため、毎日買物に出掛け、買いだめをしないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はガラス張りで自動ドアになっており、誰でも自由に出入りできるようになっている。		明るい雰囲気玄関になるように花をいけたり、玄関先にプランターを置いたりしている。庭先でちょっと一息つけるようにイスを用意している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に創った作品などを時折飾り楽しんでいる。		壁面に掛けられた飾り付けが、お年寄りにふさわしいものであったり、家庭的な雰囲気なものであるように気を付け、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置配置を工夫したり、同じ場所でずっと動かないというようなことがないように心掛けている。		廊下や玄関周りにイスとテーブルをおき、一人で過ごしたり仲の良いご利用者同士でくつろげるスペースを造りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、ご利用者の居心地のよさに配慮している。	○	なじみの時計が置かれているが、動いていない場合も多いため、安心して過ごせる配慮をしていきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除機がけの際、各居室の空気の入替えや、夕食中の居室空調入れなど、心配りがなされている。	○	夜間の温度調節は、季節の変わり目など難しいので注意していきたい。普段の空気の入替えをこまめに行えるように取り組んでいきたい。温度や湿度の調節は職員の感覚だけでなく、温度計とご利用者一人ひとりの状態に配慮し調整していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差の無い造りになっている。イスの足を切って、ご本人に合った高さにし坐り易くしている。		浴室の床を滑り防止の床に張替え、安全確保と自立への配慮をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやっていただけるかを追及し、状況に合わせて環境整備に努めている。		状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員一同で話し合いご本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご家族に協力していただき、植木鉢に花を植え、居室のベランダに置いている。玄関先にイスを置いて、ご利用者が涼んだり、ひなたぼっこができるように工夫をしている。	○	庭に花を植えたり、畑のスペースに野菜を植え、季節の野菜を楽しんでいる。中庭のスペースを活用し、外気浴が楽しめる空間を作りたい。

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほとんど毎日散歩に出掛け、近所の方々から微笑ましく感じていただけているようです。途中でお花や、お野菜をいただいてうれしそうに帰ってこられます。ご利用者が事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫し、喫茶店でスタッフとお茶を飲んだり、近くの商店街で自分の買物ができたり、外出が行事的にならないように行きたいところにいける支援をこれからも取り組んでいきます。さりげなくご本人の出番を作ったり、そっと助けてあげたり、ご本人が力を振り絞り自分らしく生きる姿を、みんなで寄り添って支えていく事を、日々大切にしていきます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「へいあん なでしこ」
（ユニット名）	は ま ゆ う
所在地 （県・市町村名）	神奈川県平塚市撫子原6-30
記入者名 （管理者）	高江洌 順子
記入日	平成 19 年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活する事を支えるケアの具体的なイメージを持って職員全体で話し合い、事業所独自の理念を作成している。	○	地域の中での行動範囲が狭いのが残念。住み慣れた地域で生きがいと喜びを持って穏やかに暮らせる居心地よい環境を創り、関係性の継続を支えるための柔軟な支援に取り組んでいます。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、確認しあうようにしている。		具体的なケアについて意見の統一を図っている。毎朝、朝礼にて、理念を唱和している。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族にはホームだよりを活用し、最も目につく場所に毎回載せている。地域住民のホーム見学の場面でわかりやすく説明している。	○	パンフレットを通して理念を伝えている。今後は、町内会の会合、地域の集まりやイベント参加の他、地域向けの情報誌の発行に取り組みたい。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの保育園児の訪問があり、日常的に散歩や買物等に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。		保育園児が散歩の途中に気軽に立ち寄り、歌を歌ったり、ご利用者とお話をしている。回覧版や、お花や畑の作物の差し入れをいただいたり、近隣に住む人達とふれあう機会がある。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の行事に参加している。		事業所敷地内にゴミステーションを設置し、地域の方々にも利用していただいている。11月の防災訓練には、近所の方々にも参加していただく予定にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において地域の町内会役員や、民生委員の方に地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか、議題の中で提案しているが実施していない。人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。	○	通所介護にも取り組み、認知症高齢者等の受け入れを計画し、取り組みたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	具体的な改善に取り組んでいる。グループホーム便りの毎月の発行。理念の作成。		ホームだよりを作成し、毎月ご家族へ送付している。事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成した。自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や、懸案事項について、その経過を報告し、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえて、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。	○	災害時の対策と地域との連携。SOSシステム作り。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的なグループホーム連絡会に参加している。		市町村担当者に事業所の活動や、課題について報告し、協議等行うよう働きかけている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の「安心センター」(地域福祉権利擁護事業)の協力を得て支援している。	○	成年後見については、管理者が一人ずつ対応するため他の職員は理解していない。その為必要な時に支援出来る体制が万全とはいえない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。		高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を充分とって丁寧に説明している。特に利用料金や、起こりうるリスク、重度化や、看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		ご利用者の状態変化により、契約解除に至る場合は、ご本人を交えてご家族等と対応方針を相談している。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月に一度派遣してもらい、ご利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考にしている。	○	ご利用者同士が話し合っ、ご利用者の要望や意見を出してもらう機会を作る取り組みをしたい。出された意見は、運営や日々のケアに活かしたい。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホームだより」にて現在の報告をし、他に電話やメールなどで連絡を取っている。		月に一回「ホームだより」を発行し、ご利用者の普段の暮らしぶりについて心身の状況チェック表、一ヶ月の献立メニュー表、写真等を添えて報告している。
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の派遣の受け入れや、年に2回の社内アンケートを実施し回答するシステムがある。		ご家族には面会時や家族会等で常に問いかけ、何でもお話いただけるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させている。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のフロアーミーティングにて実施している。		毎月1回のフロアーミーティングに職員が全員参加し職員の意見や提案を聞く機会にし、反映させている。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応に向けた勤務調整に努めている。		職員の急病や急な休みの時に応援してくれる人が確保できている。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。		やむを得ず職員が代わるときは、引継ぎの時間を充分にとり、スムーズに移行できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、研修等参加の機会がある。	○	段階的に力をつけているための介護職員業務レベル評価表を作成し、目標課題をもってもらっているが、まだ調整段階で、十分生かされていない。事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしているが、それらの研修報告は、毎月のフロアー会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村単位のグループホーム連絡会に管理者が参加している。	○	市内に連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいる。今後は全国組織の同業者ネットワークに加入し、質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常業務や面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。気分転換できる休憩室を確保している。	○	職員の話をもっと聞いて職員個人への対応をし、職員のストレスを軽減する為の環境づくりに取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	グループホーム介護職員レベル評価表を作成している。	○	グループホーム介護職員レベル評価表を作成しているが、段階的、計画的に職員が向上心を持って働けるよう職能評価につなげていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、ご本人に会い、話をよく聴くことを大切に、ご本人を受け止めることに努めている。		事前面談で生活状態を把握するよう努め、また、ご本人にグループホームを見学していただき、他のご利用者と食事を一緒にし、ご本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談をする家族の立場に立って、ご家族等の話をしっかりと聴き、受け止めながら関係を築くことに努めている。		これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前の話し合いから、次の段階の相談につなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、ご家族の実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所に来てもらい、短時間でも過ごしていただいたり、ご利用者と食事を一緒にしたり、ご本人が職員や、ご利用者に徐々に馴染みながら、利用に移っていただけるように支援している。		やむを得ずご家族の状況で利用が急がれる場合には、ご家族やそれまで関わっていた関係者に来てもらうなどして、安心感を持ってもらうようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に話したり、テレビを観たり、昔話を聞いたりし、ご利用者が一番好む話や、場面を作り出している。	○	ご利用者を支援されるのみの立場におかず、ご利用者の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりを築いていきたい。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることでご本人をささえていくための協力関係が築けている。		職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している事を伝えている。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者が伝えられない思い、うまく話せない言葉を時には代弁者となって支援し、ご本人とご家族との時間を大切に見守っている。職員は裏方に回り、ご家族とご本人の絆を大切に家族の役割を奪わないよう気配りしている。	○	ご家族、ご本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊でご家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事にご家族を誘ったりしながら、よい関係の継続に努めていきたい。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は積極的に行っている。今までの生活の延長線上であるよう、友人等の訪問や、電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できる支援をしている。	○	ご本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう、知人、友人や商店、行きつけの場所等とご本人がつきあいを続けられるように実際に会いに行ったり来てもらったり、あるいは出かけていく場面を積極的に作っていきたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気持ちよく過ごしていただく為に、テーブルを囲んでいただいたり、居室を変えていただいたり、あるいは食卓テーブルの配置を工夫する等、集団の中で、ご利用者の仲の良し悪しに配慮し、ご利用者が孤立してしまわないよう支援している。毎日の食事やお茶の時間は、職員も一緒に摂り、多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通してご利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。	○	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士が過ごせる場面づくりをする等ご利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。年長者として長年培った人とうまく付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力等を発揮できるよう、ご利用者同士の支え合いを引き出し支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にご利用者と一緒に遊びに行ったり、行事にきてもらったりしていない。	○	サービスの利用が終了された方も、行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。	○	発言力のあるご利用者だけでなく、一人ひとりの表情や行動の中にある、その方の希望や意向を把握できるよう努力する。「聞いても実現は困難」とみなしたり、「認知症だから聞くのは無理」と決め付けるのではなく、一人ひとりの思いや意向について関心を払いご本人の視点に立って意見を出し合い把握に努めます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者等から聴き取るようにしている。利用開始後も折に触れご本人やご家族にどのような生活をしていたかを尋ねている。	○	ご家族がご本人の暮らしぶりをあまり知らずご利用者の生活歴を把握できない場合は、ご家族の許可を得ながら、ご本人の昔をよく知っている親類や友人、近所の人達等にも、丁寧に働きかけて、過去の具体的な情報を伝えてもらうよう努めていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。	○	ご利用者の部分的な問題や、断片的な情報の把握に陥らずに、一人ひとりの一日の暮らしの流れに沿って、ご本人の状況を総合的に把握していくことに努めていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング等カンファレンスを行っている。	○	「ご本人に伺っても無理」と決め付けず、ご本人と計画について話し合い、意向やアイデアを反映させていく取り組みをしています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回はケア関係者の最新の情報や気づきケアのアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくために介護計画の見直しをしている。	○	介護計画と照らし合せて、現時点のご利用者やご家族の状況・ニーズ・サービス提供状況と、ずれていることはないか、見直していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録書に職員の気づきや、ご利用者の細かな発言もふくめ記入している。	○	介護計画に沿って実践されたか、それでどうなったかの評価を日常的に記入し、情報の蓄積につなげていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。	○	ご自宅で暮らす認知症の方々に居住環境や職員によるデイサービスを予定している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防署や民生委員と意見交換する機会を設けている。	○	警察署・公民館・図書館等地域の資源を活用できるように普段から連携を取っていきます。ご本人と地域とのさまざまな接点を見出し、ボランティアへの協力を呼びかけていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人のご希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。		地域の図書館や町内会が開催するダンベル体操に参加したり、また、市営温水プールを利用させていただく予定にしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換等協力関係を築いている。		権利擁護が必要なご利用者には、「安心センター」(市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業)と協力してサービスが円滑に利用できるよう支援している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、ホーム利用以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。		通院介助等を行う際の情報交換は、受診結果に関する情報の共有ができるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、これまでのかかりつけ医を基本としています。		状況に応じてご本人やご家族が希望する医師による医療を受けられるように支援する事もある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		訪問看護ステーションとの契約に基づき日頃の健康管理や医療面での相談・助言対応を行ってもらっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるご本人のダメージを極力防ぐ為に病院医師と話をする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁にご家族が見舞うように協力していただき、ご家族とも情報交換をしながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定めている。	○	重度や終末期のご利用者を支えるためにチームの連携職員の力量、諸条件等を備え、ほかのご利用者への影響も踏まえて対応している。今後、重度化に伴う意思確認書を作成する必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。急変した場合は直ぐに対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。		重度や終末期のご利用者を支えるために、チームの連携職員の力量、諸条件等を備え、他のご利用者への影響を踏まえて対応している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は、職員同行、口頭による情報交換とともに書面による情報交換に努めている。		新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が保たれるように、これまでの生活環境や支援内容、注意が必要な点等について、情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともにご利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底に取り組んでいる。	着脱時やトイレ誘導時の声掛け等には高い意識を持っている。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	あいまいな尋ね方ではなく、選べるような尋ね方をすると、自己を表現してくれる。	ご利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、些細な事でもご本人が決める場面を作っている。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュールに多少合わせている場面もあるが、無理のない程度に配慮している。	買物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、可能な範囲で柔軟に対応している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的にはご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくいご利用者には、職員と一緒に考えて、ご本人の気持ちに沿った支援を心がけている。	家庭的な雰囲気につれてもらうという点でも職員は一律のユニフォームではなく、職員各位の個性を反映した自由な装いをご利用者と一緒に楽しんでいる。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューはご利用者と相談しながら決める事もある。時には巻き寿司やいなり寿司と一緒に作ってもらったりしている。皮むきや豆のすじを取ったりと、調理の下ごしらえと一緒にしてもらったりしている。職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	食事の前と後のテーブルを拭いてもらって、張り合いや自信に繋げている。近くのスーパーへ買物に一緒に行って、野菜等選んでもらっている。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はタバコ・お酒を望む方はいない。おやつや飲み物は、なるべく召し上がりたいものを伺っている。	ご利用者が自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に採り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促している。		排泄チェック表を使用し、尿意のないご利用者にも時間を見計らって、誘導する事により、トイレで排泄できるよう支援している。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂や夜間入浴等、これまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できていない。	○	時には入浴したい日、希望する時間に入浴していただけるように取り組んでいます。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。寝付けない時には、添い寝をしたり温かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、歌った歌をテープで流し楽しんでいる。見違えるように自分らしい姿を蘇らせ、ご本人やご家族の喜びや今後に向けた希望に繋がっている。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。季節の花や風景を楽しみ、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみ事をご利用者と相談しながら行っている。	○	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、また潜在している記憶やできる力を最大限活かして、自分らしく暮らせるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気晴らしの支援に取り組んでいます。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に、個人の買物をするようにしている。		ご家族の協力を得て、小額のお金を持っている人もいる。ご家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時や喫茶店のお金などは、ご自分で払っていただけるようお金を手渡すなどの工夫をしている。仏壇のお供え等ご自分で買物に行かれる。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩に出掛けている。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店に行ったり、外出に出かけたりしている。	○	日常的に買物やドライブが楽しめる生活に取り組んでいます。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、場合によってはご家族の協力を依頼することもある。	○	「故郷に帰ってみたい」「温泉に行きたい」などのご利用者の思いが出された時は、実現する為の方策を職員同士で検討し支援に繋げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。手紙を書くときに写真を一緒に入れる等の支援をしている。	○	ご本人は手紙は書けない、電話は掛けられないと決めつけずに、ご家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、年賀状や暑中見舞いを出す等の支援をしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。		自由にお子さんや、お孫さんと一緒にお部屋でお茶をおたきながら、気兼ねなく過ごせるよう、おもてなしの心で取り組んでいる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や、身体拘束に関する研修を事業の中で実施し、職員の共有認識を図っている。		ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われてないか等の点検をしている。止むを得ず、身体拘束が必要な場合は、ご家族、主治医の承諾を得、ご家族の承諾書を頂いている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。ご利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	○	ご利用者や地域のお年寄りが、自由に出かけられる保障のためにも、地域との連携やネットワークづくりの推進に取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながらも、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。		夜間は2時間ごとにご利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できる場所にいるようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、ご利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、ご利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		今まで大丈夫だった、というのは今後も大丈夫の保障は無い為、洗面所の石鹸等は棚(ボックス型)を用意し、ご利用者が自分で棚から出し入れできるようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	○	スタッフ同士の情報交換、防止策の検討は、ミーティングにおいて、随時行っているが、ヒヤリハットの報告が徹底されていない為、今後は職員全員で取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡体制、緊急時対応の研修は準備されているが、定期的な訓練はされていない。	○	全ての職員が年に1回の応急手当の勉強会(実技を含む)を実施し、体験、体得、習得できるよう取り組みたい。また、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回ご利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。		消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご利用者一人ひとりに起こりえるリスクについて把握しており、ご家族等に対して対応策を説明している。		様々な役割活動や、自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしがご利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを、ご家族に見ていただいたり、具体的に説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調やささいな表情の変化も見逃さないよう、早期発見に努めている。変化等気づいたことがあれば、すぐに管理者に報告するとともに、職員間で共有し対応している。	○	一人ひとりの持病等についての留意事項の把握の徹底に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに処方箋を整理し、処方箋一覧表に薬の変更時にはその都度記載し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時はご本人に手渡し、きちんと服用できているかを確認している。	○	薬の処方や容量が変更されたり、ご本人の状態変化が観られる時は、いつもより詳細な記録を取るようし、看護職員や協力医療機関の連携が図れるように取り組んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や、乳製品を摂りいれている。		散歩や運動を働きかけることで、自然な排便ができるように取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助をしている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		口腔ケアの重要性をすべての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身に付けるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。	○	定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをいただけるよう、取り組んでいます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所ないで起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策に努めている。		感染症に関して情報収集を行い取り決めをつくり、早期発見、早期対策に努めている。またご利用者及びご家族に同意していただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔を心掛けている。		新鮮で安全な食材を使用するため、毎日買物に出掛け、買いだめをしないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はガラス張りで自動ドアになっており、誰でも自由に出入りできるようになっている。		明るい雰囲気玄関になるように花をいけたり、玄関先にプランターを置いたりしている。庭先でちょっと一息つけるようにイスを用意している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に創った作品などを時折飾り楽しんでいる。		壁面に掛けられた飾り付けが、お年寄りにふさわしいものであったり、家庭的な雰囲気奈物であるように気を付け、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置配置を工夫したり、同じ場所でずっと動かないというようなことがないように心掛けている。	○	廊下や玄関周りにイスとテーブルをおき、一人で過ごしたり仲の良いご利用者同士でくつろげるスペースを造りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、ご利用者の居心地のよさに配慮している。	○	なじみの時計が置かれているが、動いていない場合も多いため、安心して過ごせる配慮をしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除機がけの際、各居室の空気の入替えや、夕食中の居室空調入れなど、心配りがなされている。	○	夜間の温度調節は、季節の変わり目など難しいので注意していきたい。普段の空気の入替えをこまめに行えるように取り組んでいきたい。温度や湿度の調節は職員の感覚だけでなく、温度計とご利用者一人ひとりの状態に配慮し調整していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差の無い造りになっている。イスの足を切って、ご本人に合った高さにし坐り易くしている。		浴室の床を滑り防止の床に張替え、安全確保と自立への配慮をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたらご本人の力でやっていただけるかを追及し、状況に合わせて環境整備に努めている。		状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員一同で話し合いご本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご家族に協力していただき、植木鉢に花を植え、居室のベランダに置いている。玄関先にイスを置いて、ご利用者が涼んだり、ひなたぼっこができるように工夫をしている。	○	庭に花を植えたり、畑のスペースに野菜を植え、季節の野菜を楽しんでいる。中庭のスペースを活用し、外気浴が楽しめる空間を作りたい。

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	ほぼ全ての利用者の
		☐	利用者の2/3くらいの
		☐	利用者の1/3くらいの
		☐	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	毎日ある
		☐	数日に1回程度ある
		☐	たまにある
		☐	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	ほぼ全ての利用者が
		☐	利用者の2/3くらいが
		☐	利用者の1/3くらいが
		☐	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐	ほぼ全ての家族と
		☐	家族の2/3くらいと
		☐	家族の1/3くらいと
		☐	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			ほとんどない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほとんど毎日散歩に出掛け、近所の方々から微笑ましく感じていただけているようです。途中でお花や、お野菜をいただいてうれしそうに帰ってこられます。ご利用者が事業所の中だけで過ごさずに、日常的に外出できるような個別の支援を工夫し、喫茶店でスタッフとお茶を飲んだり、近くの商店街で自分の買物ができたり、外出が行事的にならないように行きたいところにいける支援をこれからも取り組んでいきます。さりげなくご本人の出番を作ったり、そっと助けてあげたり、ご本人が力を振り絞り自分らしく生きる姿を、みんなで寄り添って支えていく事を、日々大切にしていきます。